

■田中清玄 共産党員となり、諫める母が自殺、入獄中反省し反共主義者に転向、政界黒幕として特異な存在となった。
たなかせいげん
満鉄発足・・・1906＝ 北海道亀田郡七飯村(函館近郊)で、戊辰戦争に敗れ北海道に渡った代々会津藩主家老の末裔で通信局に勤務する中幸助・長男に生まれる。母は愛子。

明治天皇没・1912＝ 6歳：

21ヶ条要求・1915＝ 9歳：

本格政党内閣1918＝12歳：函館中学に入学。亀井勝一郎と同級。

原敬首相暗殺1921＝15歳：

護憲三派圧勝1924＝18歳：弘前高校(旧制)入学。

円本時代始・1926＝20歳：ニセコでスキーをして大怪我をし、北大病院に入院中、多くの本を読むうち共産主義に惹かれ、
金融恐慌・・・1927＝21歳：東京帝国大学文学部美学科に入学すると、新人会に加わり、共産党に入党。
共産党事件・1928＝22歳：共産党員一斉検挙で、本富士署に引致されるも釈放、横浜磯子署に検挙されるが脱走。
世界恐慌・・・1929＝23歳：東京帝国大学哲学科中退して、佐野博と共産党再建活動を始め、
海軍軍縮条約1930＝24歳：和歌山での共産党再建大会で、再建ビューローの中心となる。コミンテルンにより正式に再建が認められる。書記長として武装方針、警官隊と拳銃などでわたりあううち、息子を諫めるべく母が割腹自殺。コミンテルンとの協議のため上海へ密航。治安維持法違反容疑で逮捕。公判で無期懲役を宣告される。

満州事変・・・1931＝25歳：
国際連盟脱退1933＝27歳：別に検挙されていた小宮山ひとと獄中結婚。佐野・鍋山の転向と、日本が天皇祭主国家と思い至り、
帝人疑獄事件1934＝28歳：母の自殺以来、共産主義に疑問を持っていたことから、転向声明を出し、

日中戦争始・1937＝31歳：

日米開戦・・・1941＝35歳：紀元二千六百年の恩赦で仮出獄すると、入獄仲間だった四元義隆に紹介受けて、龍沢寺(三島市)山本玄峰を訪ね、以後4年間、師の意見聞くべく来訪する多くの政財界有力者を見、師の使いしながら、参禅修行、
・・・1942＝36歳：
創価学会検挙1943＝37歳：長男が誕生。
年金+総武装 1944＝38歳：
敗戦・・・1945＝39歳：修行終えると、戦災復興工事請負う神中組を設立。敗戦後、*{週刊朝日}に天皇制護持の一文を書いたことから、思いがけず昭和天皇に拝謁することになり、三つの提言。
新憲法施行・1947＝41歳：三幸建設工業と改称し、社長。沖縄でも事業展開するようになり、GHQ幹部とも接触、
極東裁判決・1948＝42歳：長女が誕生。
三大事件・・・1949＝43歳：GHQのアーモンド参謀長主催のパーティーで、朝鮮戦争を予言。
独立回復・・・1951＝45歳：次男誕生。

55年体制始・1955＝49歳：社長を四元に譲って、退任。池田成彬の紹介で、タイを訪問、日本企業による事業仕組むもクーデター。

なべ底不況・1957＝51歳：*イタリア・トリノでのモンペルラン協会に出席し、初めてハブスブルグ家オットー大公に会い、共鳴、以後交遊を続けて行く。
常々、岸信介・河野一郎・児玉誉士郎一派の横暴を止めようとしていたこともあって、
安保闘争・・・1960＝54歳：下田ガス社長に就任。安保闘争では全学連主流派(反日共系)幹部と接触、委員長唐牛健太郎に資金援助。
タイタイ病始・1961＝55歳：師山本玄峰が死去。モンペルラン協会に入会。クウェート訪問。
全国総合計画1962＝56歳：田中技術開発を設立し、社長。初めてオットー大公を日本に招く。
TV宇宙中継始1963＝57歳：市川房江参議院議員・田岡一雄山口組組長らと{麻薬追放・国土浄化連盟}づくり、東声会組員に狙撃され重傷を負う。
大学紛争始・1965＝59歳：インドネシア反スカルノ・反共産主義革命に際し、スハルト政権の実現に協力、日本の石油利権確保。

美濃部都知事1967＝61歳：アブダビのシェイクザイド国王と会見。

全共闘ピーク・1969＝63歳：アラブ諸国を13回訪問。
大阪万博・・・1970＝64歳：下田ガス社長を退任。シェイクザイド国王と再会見。胃痛のため胃の五分の四を切除。
ドミノショック・・・1971＝65歳：インドネシア、欧州訪問。

石油ショック1973＝67歳：田中角栄首相訪欧に、土光経団連会長らと同行。北海油田開発問題で尽力するが、事前に漏れて失敗。
角栄金脈辞任1974＝68歳：経済学者ハイエクのノーベル賞授賞式でパートナー役をつとめる。

田中角栄逮捕1976＝70歳：総合人間科学研究会を設立。
この間、尊敬していた今西錦司を介して、京大の錚々たる学者とハイエクとの対談を試みるが噛み合わず。
成田衝突・・・1978＝72歳：訪日して昭和天皇と会見した鄭小平からその内容等教えて貰う。
貿易摩擦問題1980＝73歳：*中国に招かれ50年ぶりに訪中、鄭小平と会見。インドネシアのスハルト大統領と会談。

中曽根内閣・1982＝75歳：以後、6回訪中する間、天皇訪中やアジア連盟づくりを目論むも、日本国内の抵抗多く挫折。

竹下内閣・・・1987＝81歳：
ソ連崩壊・・・1991＝85歳：心臓を手術。オットー大公と宮沢首相と会見。毎日新聞の大須賀瑞夫の取材に応じ、次代への遺言をと、
55年体制終・1993＝87歳：2年間のインタビューをまとめた「田中清玄自伝」が出版され、
・・・1996＝90歳：白内障を手術後、脳梗塞で没した。
黒幕・怪物・右翼とも称される様々な顔を持ち、インドネシア、ペルシャ湾岸の石油開発や輸入に活躍、まさに政商であった。

ちくま文庫「田中清玄自伝」、